

流通経済大学

履修要綱

スポーツ健康科学部

(2013 ~ 2016 入学生用)

目 次

学部の教育理念と基本理念	2
入学年度別教育課程表①～⑫	5
履修の手引	21
1. セメスター制	23
2. 単 位 制	23
3. 最高履修単位数	23
4. 3学年進級に必要な単位数	24
5. 卒 業	24
6. 科目の履修	25
7. 単位の修得	25
8. 休講と補講	26
9. 出席調査	26
10. 災害時の授業	26
11. 試 験	26
12. 不正行為	27
13. 成績評価	27
14. GPA	28
15. 単位の認定	29
16. 他キャンパス受講	31
17. 履修の方法	32
18. 卒業に必要な総単位数	35
19. 履修モデル（学びの分野）	35
20. 「スポーツ教材研究」科目について	39
21. 資格の取得について	39

スポーツ健康科学部の教育理念と基本理念

スポーツ健康科学部の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

スポーツ健康科学部では、スポーツと健康の領域に関して、人間力と生命の尊厳を柱に多様な経験と専門的知識をもって諸問題を積極的に解決できる人材の養成を目的とする。

スポーツ健康科学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

スポーツ健康科学科では、スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成を目的とする。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

スポーツ健康科学科は、学部の教育目的の下、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるとともに、生命教育を中心としたスポーツ健康科学の学問内容および方法を理解している。（知識）
2. 自ら設定した課題について、スポーツ健康科学の学問領域の知識を用いて考察し、自分の考えを口頭表現、文章表現や身体表現によつて的確に伝えることができる。（技能）
3. スポーツ健康科学の知を実践の力へと高め、地域社会および国際社会のニーズにこたえることができる。（態度）

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

スポーツ健康科学科では、建学の理念に基づく教育理念に則り、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を目標にカリキュラムを構成している。

今日の社会事象を鑑みると、スポーツを専門に学んだ学生が社会において活躍する為には、学問を横断的に学ぶ必要がある。従つて、特にコースという縛りを設けず、「専門基礎科目」と「専門発展科目」の科目群で、幅広い知識の修得を目指す。

以下、具体的な開講科目は次の通りである。

1. 上記で示した人材育成を図る為、「生命の尊厳」と「人間力」を持った人材の育成を特に重視し、必修科目においてこれらの力を創造していく。またコミュニケーション能力および課題発見・解決能力を育成するため、1年次から4年次まで演習科目を配置する。
2. 国際化社会において必須となる外国語によるコミュニケーション能力を育成する科目を配置する。
3. 生涯学習のための基礎的知識と、自己実現に向けた能動的な姿勢を育成するキャリア関連科目を配置する。
4. 人文科学、社会科学、自然科学に対する理解を深める教養科目を配置する。
5. 専門基礎科目では、今日、スポーツ科学を構成している学問を幅広く修得させる。

6. 専門発展科目では、発展的かつより専門性を持った科目でカリキュラムを構成する。
7. スポーツの競技力向上を図る科目を配置する。

人材養成と卒業後の進路

概ね以下の人材養成と卒業後の進路を想定しています。

- ①競技スポーツの競技力向上を図るために、スポーツ選手のコンディションを整え、試合に向けてメンタル面からもサポートでき、そして、相手選手やチームの戦術等を分析することで、選手やチームを勝利に導くことのできる指導者の養成を図ります。

卒業後の進路には、プロスポーツの指導者、地域社会におけるスポーツクラブの指導者、社会人スポーツ（企業スポーツ）が挙げられます。

- ②今日の少子高齢社会においては、高齢者の健康づくりができるスポーツを実践することが大いに求められているとともに、疾病、障害を防ぐ予防的なスポーツ実践と若年齢期からのライフスタイルに合わせたスポーツ実践が重要となっています。さらに、運動不足病を解消するためのスポーツの処方が必要となっています。そこで、様々な危険因子をもつ熟年者や運動不足者に対し、情報技術を応用し、個々人に合った適切なトレーニングプログラムを提供することのできる人材を養成します。また、今後、高齢者のスポーツ事故が増大すると予想されることから、スポーツ現場における事故や傷害に対し、迅速かつ適切に対応し、責任ある行動をとることのできる人材を養成します。

卒業後の進路には、高齢者に対して適切な運動プログラムを提供するトレーナー、スポーツ・イベント等における救急員、スポーツクラブ及び公共スポーツ施設における運動実践指導者が挙げられます。

- ③生涯学習時代におけるスポーツ事象を「する・みる・ささえる」といった概念から捉えることによって、これまでのスポーツ環境をより充実したものにし、青少年から高齢者にいたるまでの適切な健康の維持・増進を図るとともに、それを経済活動の一領域と捉えることによって新しい分野を切り開きつつ、産業界に分け入っていくことのできる社会人を養成します。

卒業後の進路には、地方自治体のスポーツ政策立案者及び運営管理者（公務員）、スポーツ団体職員、スポーツメディア関係従事者、スポーツ関係起業者・実業家が挙げられます。

- ④今日、学校教育における学力低下や子どもの問題、教員の指導力の低下や社会におけるスポーツ状況を解決するためには、学校教育や社会教育における教授方法について深く研究するとともに実際の指導力を持った人材の養成が必要不可欠です。そのため、専門的知識と深い洞察力をもって指導することのできる教育者及び指導者を養成します。

卒業後の進路には、学校教育における体育教師、スポーツクラブ及び公共スポーツ施設における指導者が挙げられます。

入学年度別教育課程表

(2016年度入学生 スポーツ健康科学科)

		1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		摘要			
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数				
必修科目		1 年演習(ゼミ)	4	2 年演習(ゼミ)	4	3 年演習(ゼミ)	4	4 年演習(ゼミ)	4	16単位	必修科目26単位を履修しなければならない。		
		情報基礎 I	2	スポーツ救急理論・実習 I		2				2単位			
		スポーツ健康科学概論	2							4単位			
		海浜実習	2			スポーツリーダー実習	2			4単位			
外国語(注1)		英語 A I・A II	各1	英語 D I・D II	各1					8単位	英語8単位(外国人留学生は日本語8単位)を履修しなければならない		
		英語 B I・B II	各1	英語 E I・E II	各1								
		(外)日本語 A I・A II	各1	(外)日本語 C I・C II	各1								
		(外)日本語 B I・B II	各1	(外)日本語 D I・D II	各1								
キャリア科目	キャリア形成	R K U 入門	1	R K U 実践					1	6単位以上	左記科目の中から90単位を履修しなければならない。(注2)		
		キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2								
				キャリアカウンセリング								2	
						(外)ビジネス日本語 I・II						各1	
		海外研修										2	
		資格取得	(別記1)									各1	
	社会・企業研究				(別記2)							各2	
					(別記3)							各4	
			(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2					
			(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1							
			災害ボランティア I・II									各1	
	進路支援				日本通運寄付講座		野村証券寄付講座		全国通運連盟寄付講座			各2	
					ダイレクトマーケティング実践講座		業界研究特別講座					各2	
					インターンシップ基礎		インターンシップ					各2	
					インターンシップ(海外)							2	
選必修科目	教養基礎科目	キャリア基礎(数理)	各1	キャリア基礎(言語)	各1					2			
		キャリア発展(数理)	各1	キャリア発展(言語)	各1								
						職業選択論							
選必修科目	教養基礎科目	哲学 I・II		論理学 I・II		教育学 I・II		心理学 I・II		各2	16単位以上		
		言語論 I・II		現代文章論 I・II		イスラム学 I・II		宗教学 I・II					
		(外)日本の思想											
		社会学 I・II		経済学 I・II		法学 I・II		人文地理学 I・II					
選必修科目	教養基礎科目	日本文化論 I・II		外国文化論(アジア) I・II		外国文化論(西欧) I・II							
		(外)日本の現在		(外)日本事情									
		数学 I・II		地球科学 I・II		生態学 I・II		自然環境論 I・II					
		物質科学 I・II		生命科学 I・II		自然地理学 I・II							
選必修科目	教養基礎科目	文学(日本文学) I・II		文学(外国文学) I・II		歴史学入門(日本史) I・II		歴史学入門(東洋史) I・II		各2			
		歴史学入門(西洋史) I・II		民俗学 I・II		考古学 I・II		美術史 I・II					
		スポーツ哲学		スポーツ人類学		スポーツ専門英語							
		スポーツマネジメント論	各2	スポーツ社会学	各2	スポーツ史	各2						
選必修科目	教養基礎科目	スポーツ心理学		スポーツ政策論		スポーツ教育学				14単位以上			
		スポーツ医学		スポーツバイオメカニクス		精神保健学	2						
		機能解剖学 I	各2	学校保健学	各2								
		スポーツ栄養学 I		健康教育学	各2								
選必修科目	教養基礎科目	スポーツ運動学		スポーツ生理学						12単位以上			
		発育発達老化の理論・実習	各2	コーチング論		スポーツ技術・戦術論							
				体力トレーニング論	各2	スポーツ情報戦略・分析論	各2						
				メンタルトレーニング論		アダプテッド・スポーツ論							
選必修科目	教養基礎科目	体づくり運動								10単位以上			
		器械運動											
		陸上競技											
		水泳・水中運動											
選必修科目	スポーツ実技科目	I	各1							2単位以上			
		バスケットボール								2単位以上			
		サッカー								2単位以上			
		ラグビー								2単位以上			
選必修科目	スポーツ実技科目	アメリカンフットボール	各1							2単位以上			
		野球・ソフトボール								2単位以上			
		バレーボール								2単位以上			
		テニスコート								2単位以上			
選必修科目	スポーツ実技科目	卓球	各1							2単位以上			
		バドミントン								2単位以上			
		柔剣道								1単位以上			
		剣道								1単位以上			
選必修科目	スポーツ実技科目	新体操	各1							1単位以上			
										1単位以上			
										1単位以上			
										1単位以上			

	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		摘要	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数		
専門 発展 科目	I		トレーナー概論 リハビリテーション理論・実習Ⅰ(基礎) コンディショニング理論・実習Ⅰ(基礎)	各2	スポーツ救急理論・実習Ⅱ リハビリテーション理論・実習Ⅱ(応用) スポーツ外傷・障害と予防	各2				
	II	健康づくりとジョギング エアロビックダンス エアロビック運動の理論	2 1 2	健康管理学 健康づくりと運動プログラム スポーツ栄養学Ⅱ 測定評価理論・実習 ジョギング・ウォーキング	各2	トレーニング実習 健康産業施設等現場実習	各1			
	III	教育原理 安全教育(学校安全を含む) 教育社会学概論 教育心理学	各2	保健体育科教育法Ⅰ 教職特論演習Ⅰ 学校教育現場実習	2 2 1	保健体育科教育法Ⅱ 教職特論演習Ⅱ 教職特論演習Ⅲ	各2			
	IV			スポーツボランティア論・実習	2	スポーツプロモーション論・実習 テクニカルサポート論・実習 コーチング理論・実習	各2	スポーツマネジメントプログラム演習	4	
	V			スポーツと文化 スポーツと法 スポーツと国際協力	各2	スポーツと情報処理 スポーツと政治 スポーツとメディア	各2			
	VI			キャンプ実習 スキー・スノーボード実習 ニュー・スポーツ実習	各1	ライフセービング実習 ゴルフ実習	各1			
選 択 科 目	経済学 (注3)	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		日本経済論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ	各2	左記科目の中から 90単位を履修 しなければならない。 (注2)
		経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ	各2	会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ		管理会計論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論 マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論 経営情報システム論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ		監査論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ ネットワーク経営論 国際小売論 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム	各2	
	社会学 (注5)	社会調査法 社会調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論 障害者福祉論		経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 防災社会学		産業社会学 国際社会学 社会心理学 対人関係論 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論	各2	
	流通情報学 (注6)	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 情報応用システム論 情報科学Ⅰ・Ⅱ		ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ 通信ネットワーク概論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論		ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	各2	
	法学 (注7)	政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	各2	
	教養 発展 科目	英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ			各1	
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ		留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)					各1	
選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ			選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ			
			選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ	各1		
				選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ				
卒業に必要な単位									124単位以上	

自由 科目	教養		リベラルアーツ入門		2		2		中・合計単位数29単位 高・合計単位数31単位
	資格 科目 (教員免許)	教育 師 史 論	教育 相 程 談	2	教育 方 法 学	2	教 職 実 践 演 習	2	
自由 科目	(健康運動指 導士・AT)	教育 実 習 (中学校) 教育 実 習 (高等学校)	教育 課 程 論	2	介 護 入 門 (選 択)	2	教 育 実 習 (中 学 校)	4	
			教 育 実 習 (高 等 学 校)	2	ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅲ	1	教 育 実 習 (高 等 学 校)	2	
			特 別 活 動 論	2	ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅳ	1			
			道 徳 教 育 論	2					
			ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅰ	1					
			ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅱ	1					
			機 能 解 剖 学 Ⅱ	各2	機 能 評 価 理 論 ・ 実 習	2	ア ス レ ィ ク ト レ ー ナ ー 実 習 Ⅱ (応 用)	1	
			運 動 負 荷 試 験	2	ア ス レ ィ ク ト レ ー ニ ン グ 理 論 ・ 実 習	2			
			健 康 づ く り 施 策 論	2	コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ 理 論 ・ 実 習 Ⅱ (機 械 別)	2			
					ア ス レ ィ ク ト レ ー ナ ー 実 習 Ⅰ (基 礎)	1			
								健康運動指導士4単位 AT 10単位	

(外) は外国人留学生の科目を示す。

(特) 印の科目は特別奨学生の特定期間でそれ以外の学生は受講できません。

- (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡを履修しなければならない。
- (注2) この欄の左列の単位数を合計すると、6単位以上+16単位以上+14単位以上+12単位以上+10単位以上+9単位以上=67単位以上となり、90単位にはならない。不足分の23単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
- (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
- (注9) アクセス検定合格による単位認定については、最高2単位です。

	ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1単位	漢字検定準2級 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャルリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャルリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2単位	漢字検定2級 宅地建物取引士 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定ミクロ・マクロ(Aランク以上) ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 医療事務技能審査試験 ドットコムマスターADVANCE(シングルスター)
別記3	40	4単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレータ 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

入学年度別教育課程表

(2015年度入学生 スポーツ健康科学科)

		1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		概要		
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数			
必修科目		1 年演習(ゼミ)	4	2 年演習(ゼミ)	4	3 年演習(ゼミ)	4	4 年演習(ゼミ)	4	16単位	必修科目26単位を履修しなければならない。	
		情報基礎 I	2	スポーツ救急理論・実習 I		2				2単位		
		スポーツ健康科学概論	2							4単位		
		海浜実習	2			スポーツリーダー実習	2			4単位		
外国語(注1)		英語 A I・A II	各1	英語 D I・D II	各1					8 単位	英語8単位(外国人留学生は日本語8単位)を履修しなければならない	
		英語 B I・B II	各1	英語 E I・E II	各1							
		(外)日本語 A I・A II	各1	(外)日本語 C I・C II	各1							
		(外)日本語 B I・B II	各1	(外)日本語 D I・D II	各1							
キャリア科目	キャリア形成	R K U 入門	1	R K U 実践						1	6 単位以上	
		キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2							
				キャリアカウンセリング								2
								(外)ビジネス日本語 I・II				各1
			海外研修									2
			資格取得		(別記1)							各1
					(別記2)							各2
	社会・企業研究											各4
			(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2				
			(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1						
	進路支援		災害ボランティア I・II									各1
					日本通運寄付講座 I・II		野村証券寄付講座		全国通運連盟寄付講座			各2
					ダイレクトマーケティング実践講座		業界研究特別講座					各2
					インターンシップ基礎		インターンシップ					各2
選 択 必 修 科 目	教養基礎科目	哲学 I・II		論理学 I・II		教育学 I・II		心理学 I・II			16 単位以上	
		言語論 I・II		現代文章論 I・II		イスラム学 I・II		宗教学 I・II				
		社会学 I・II		経済学 I・II		法学 I・II		人文地理学 I・II			各2	
		日本文化論 I・II		外国文化論(アジア) I・II		外国文化論(西欧) I・II						
		数学 I・II		地球科学 I・II		生態学 I・II		自然環境論 I・II			各2	
		物質科学 I・II		生命科学 I・II		自然地理学 I・II						
		文学(日本文学) I・II		文学(外国文学) I・II		歴史学入門(日本史) I・II		歴史学入門(東洋史)			各2	
		歴史学入門(西洋史)		民俗学 I・II		考古学 I・II		美術史 I・II				
専 門 基 礎 科 目	I	スポーツ哲学	各2	スポーツ人類学	各2	スポーツ専門英語	各2				14 単位以上	
		スポーツマネジメント論	各2	スポーツ社会学	各2	スポーツ史	各2					
		スポーツ心理学	各2	スポーツ政策論	各2	スポーツ教育学	各2					
II	スポーツ医学	各2	スポーツバイオメカニクス	各2	精神保健学	2				12 単位以上		
	衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	各2	学校保健学	各2								
	機能解剖学 I	各2	健康教育学	各2								
III	スポーツ栄養学 I	各2	スポーツ生理学	各2						10 単位以上		
	スポーツ運動学	各2	コーチング論	各2	スポーツ技術・戦術論	各2						
	スポーツ発達老化の理論・実習	各2	体力トレーニング論	各2	スポーツ情報戦略・分析論	各2						
ス ポー ツ 実 技 科 目	I	体づくり運動	各1							2 単位以上	9 単位以上	
		器械運動	各1							2 単位以上		
		陸上競技	各1							2 単位以上		
		水泳・水中運動	各1							2 単位以上		
II	バスケットボール	各1							2 単位以上	9 単位以上		
	サッカー	各1							2 単位以上			
	ラグビー	各1							2 単位以上			
	アメリカンフットボール	各1							2 単位以上			
III	野球・ソフトボール	各1							2 単位以上	9 単位以上		
	バレーボール	各1							2 単位以上			
	テニス	各1							2 単位以上			
	バドミントン	各1							2 単位以上			
IV	卓球	各1							2 単位以上	9 単位以上		
	柔道	各1							2 単位以上			
	剣道	各1							2 単位以上			
	新体操	各1							1 単位以上			

		1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		摘要
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
専 門 発 展 科 目	I			ト レ ー ナ ー 概 論 リハビリテーション理論・実習Ⅰ(基礎) コンディショニング理論・実習Ⅰ(基礎)	各2	スポーツ救急理論・実習Ⅱ リハビリテーション理論・実習Ⅱ(応用) スポーツ外傷・障害と予防	各2			
	II	健康づくりとジョギング エアロビックダンス エアロビック運動の理論	2 1 2	健 康 管 理 学 健康づくりと運動プログラム スポーツ栄養学Ⅱ 測定評価理論・実習 ジョギング・ウォーキング	各2	ト レ ー ニ ン グ 実 習 健康産業施設等現場実習	各1			
	III	教 育 原 理 安全教育(学校安全を含む) 教育社会学概論 教育心理学	各2	保健体育科教育法Ⅰ 教職特論演習Ⅰ 学校教育現場実習	2 2 1	保健体育科教育法Ⅱ 教職特論演習Ⅱ 教職特論演習Ⅲ	各2			
	IV			スポーツボランティア論・実習	2	スポーツプロモーション論・実習 テクニカルサポート論・実習 コーチング理論・実習	各2	スポーツマネジメントプログラム演習	4	
	V			ス ポ ー ツ と 文 化 ス ポ ー ツ と 法 ス ポ ー ツ と 国 際 協 力	各2	ス ポ ー ツ と 情 報 処 理 ス ポ ー ツ と 政 治 ス ポ ー ツ と メ デ ィ ア	各2			
	VI			キ ャ ン プ 実 習 スキー・スノーボード実習 ニュー・スポーツ実習	各1	ラ イ フ セ ー ビ ン グ 実 習 ゴ ル フ 実 習	各1			
選 択 科 目	経済学 (注3)	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		日本経済論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ	各2	左記科目の中から 90単位を履修 しなければならない。 (注2)
		経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ	各2	会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ		管理会計論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論 マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論 経営情報システム論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ		監査論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ ネットワーク経営論 国際小売論 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム	各2	
	社会学 (注5)	社会調査法 社会調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論 障害者福祉論		経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 防災社会学		産業社会学 国際社会学 社会心理学 対人関係論 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論	各2	
	流通情報学 (注6)	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 情報応用システム論 情報科学Ⅰ・Ⅱ		ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ 通信ネットワーク概論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論		ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	各2	
	法学 (注7)	政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	各2	
	教 養 発 展 科 目	英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ			各1	
留学英会話Ⅰ・Ⅱ			留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)					各1		
選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ			選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ			
			選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ	各1		
				選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ				
卒業に必要な単位										124単位以上

自 由 科 目	教養		リベラルアーツ入門		教育方法学		教職実践演習		中・合計単位数29単位 高・合計単位数31単位
	資格 科目 (教員免許)	教育 師 史 論	教 育 相 程 談	教 育 課 程 論	介 護 入 門 (選 択)	2 2	2 1	2 4	
(健康運動指 導士・AT)		各2	教 育 特 別 活 動 論	2	ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅲ	1	教 育 実 習 (中 学 校)	2	高・合計単位数31単位
			道 徳 教 育 論	2	ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅳ	1	教 育 実 習 (高 等 学 校)	2	
			ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅰ	1	機 能 評 価 理 論 ・ 実 習	2	ア ス レ テ ィ ク ト レ ー ナ ー 実 習 Ⅱ (応 用)	1	健康運動指導士4単位 AT 10単位
			ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅱ	1	ア ス レ テ ィ ク ト レ ー ニ ン グ 理 論 ・ 実 習	2			
			機 能 解 剖 学 Ⅱ	各2	ア ス レ テ ィ ク ト レ ー ナ ー 実 習 Ⅰ (基 礎)	1			
			運 動 負 荷 試 験						
			健 康 づ く り 施 策 論						

(外) は外国人留学生の科目を示す。

(特) 印の科目は特別奨学生の特典科目でそれ以外の学生は受講できません。

(注1) 1 学年、2 学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1 学年で (外) 日本語 A I・A II、(外) 日本語 B I・B II、2 学年で (外) 日本語 C I・C II、(外) 日本語 D I・D II を履修しなければならない。

(注2) この欄の左列の単位数を合計すると、6 単位以上 + 16 単位以上 + 14 単位以上 + 12 単位以上 + 10 単位以上 + 9 単位以上 = 67 単位以上となり、90 単位にはならない。不足分の 23 単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。

(注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学 I・II〕から 20 単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。

(注4) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。

(注5) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。

(注6) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。

(注7) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。

(注8) 外国人留学生は「留学英会話 I・II」及び「留学中国語会話 I・II」を履修できない。

(注9) アクセス検定合格による単位認定については、最高 2 単位です。

	ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記 1	10	1 単位	漢字検定準 2 級 秘書技能検定準 1 級 秘書技能検定 1 級 簿記検定 3 級 販売士 2 級 秘書技能検定 2 級 話しことば検定 3 級 話しことば検定 2 級 日商 PC (文書作成) 3 級 日商 PC (データ活用) 3 級 日商 PC (プレゼン資料作成) 3 級 MOS (スペシャルリストレベル) /MCAS (Word) MOS (スペシャルリストレベル) /MCAS (Excel) ドットコムマスター-BASIC
別記 2	20	2 単位	漢字検定 2 級 宅地建物取引士 簿記検定 1 級 販売士 1 級 簿記検定 2 級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定 1 級 福祉住環境コーディネーター 2 級 日商 PC (文書作成) 2 級 日商 PC (データ活用) 2 級 日商 PC (プレゼン資料作成) 2 級 経済学検定 (B/B+ランク) 経済学検定ミクロ・マクロ (Aランク以上) ファイナンシャルプランナー 3 級 IT パスポート 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-ADVANCE (シングルスター)
別記 3	40	4 単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士 (1 科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー 2 級 経済学検定 (Aランク以上)

入学年度別教育課程表

(2014年度入学生 スポーツ健康科学科)

		1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		概要				
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数					
必修科目		1 年演習(ゼミ)	4	2 年演習(ゼミ)	4	3 年演習(ゼミ)	4	4 年演習(ゼミ)	4	16単位	必修科目26単位を履修しなければならない。			
		情報基礎 I	2	スポーツ救急理論・実習 I		2				2単位				
		スポーツ健康科学概論	2							4単位				
		海浜実習	2			スポーツリーダー実習	2			4単位				
外国語(注1)		英語 A I・A II	各1	英語 D I・D II	各1					8 単位	英語8単位(外国人留学生は日本語8単位)を履修しなければならない			
		英語 B I・B II	各1	英語 E I・E II	各1									
		(外)日本語 A I・A II	各1	(外)日本語 C I・C II	各1									
		(外)日本語 B I・B II	各1	(外)日本語 D I・D II	各1									
キャリア科目	キャリア形成	R K U 入門	1	R K U 実践						1	6 単位以上			
		キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2									
				キャリアカウンセリング								2		
						(外)ビジネス日本語 I・II						各1		
			海外研修										2	
			資格取得		(別記1)								各1	
					(別記2)								各2	
	社会・企業研究				(別記3)								各4	
			(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2						
			(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1								
			災害ボランティア I・II										各1	
	進路支援				日本通運寄付講座 I・II		野村証券寄付講座		全国通運連盟寄付講座			各2	2	
					ダイレクトマーケティング実践講座		業界研究特別講座							各2
					インターンシップ基礎		インターンシップ							各2
				インターンシップ(海外)							2			
選 択 必 修 科 目	教養基礎科目	言葉や思想に関する領域		哲学 I・II		論理学 I・II		教育学 I・II		心理学 I・II	各2	16単位以上		
		社会や健康に関する領域		言語論 I・II		現代文章論 I・II		イスラム学 I・II		宗教学 I・II				
		自然や環境に関する領域		(外)日本の思想										
		歴史や文学に関する領域		社会学 I・II		経済学 I・II		法学 I・II		人文地理学 I・II				
専 門 基 礎 科 目	I	スポーツ哲学	各2	スポーツ人類学	各2	スポーツ専門英語	各2				14単位以上			
		スポーツマネジメント論	各2	スポーツ社会学	各2	スポーツ史	各2							
		スポーツ心理学	各2	スポーツ政策論	各2	スポーツ教育学	各2							
II	スポーツ医学	各2	スポーツバイオメカニクス	各2	精神保健学	2				12単位以上				
	機能解剖学 I	各2	学校保健学	各2										
	スポーツ栄養学 I	各2	健康教育学	各2										
III	スポーツ運動学	各2	スポーツ生理学	各2	スポーツ技術・戦術論	各2				10単位以上				
	スポーツ発達老化の理論・実習	各2	体力トレーニング論	各2	スポーツ情報戦略・分析論	各2								
		各2	メンタルトレーニング論	各2	アダプテッド・スポーツ論	各2								
ス ポー ツ 実 技 科 目	I	体づくり運動	各1								2単位以上			
		器械運動	各1											
		陸上競技	各1											
		水泳・水中運動	各1											
II	バスケットボール	各1								2単位以上				
	サッカー	各1												
	ラグビー	各1												
III	アメリカンフットボール	各1												
	野球・ソフトボール	各1												
IV	バレーボール	各1								2単位以上				
	テニ	各1												
IV	卓球	各1								2単位以上				
	バドミントン	各1												
IV	柔道	各1								1単位以上				
	剣道	各1												
IV	新体操	各1								1単位以上				
		各1												

左記科目の中から90単位を履修しなければならない。(注2)

	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		摘要	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数		
専門 発展 科目	I		トレーナー概論 リハビリテーション理論・実習Ⅰ(基礎) コンディショニング理論・実習Ⅰ(基礎)	各2	スポーツ救急理論・実習Ⅱ リハビリテーション理論・実習Ⅱ(応用) スポーツ外傷・障害と予防	各2				
	II	健康づくりとジョギング エアロビックダンス エアロビック運動の理論	2 1 2	健康管理学 健康づくりと運動プログラム スポーツ栄養学Ⅱ 測定評価理論・実習 ジョギング・ウォーキング	各2	トレーニング実習 健康産業施設等現場実習	各1			
	III	教育原理 安全教育(学校安全を含む) 教育社会学概論 教育心理学	各2	保健体育科教育法Ⅰ 教職特論演習Ⅰ 学校教育現場実習	2 2 1	保健体育科教育法Ⅱ 教職特論演習Ⅱ 教職特論演習Ⅲ	各2			
	IV			スポーツボランティア論・実習	2	スポーツプロモーション論・実習 テクニカルサポート論・実習 コーチング理論・実習	各2	スポーツマネジメントプログラム演習	4	
	V			スポーツと文化 スポーツと法 スポーツと国際協力	各2	スポーツと情報処理 スポーツと政治 スポーツとメディア	各2			
	VI			キャンプ実習 スキー・スノーボード実習 ニュー・スポーツ実習	各1	ライフセービング実習 ゴルフ実習	各1			
選 択 科 目	経済学 (注3)	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		日本経済論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ	各2	左記科目の中から 90単位を履修 しなければならない。 (注2)
	経営学 (注4)	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ	各2	会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ		管理会計論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論 マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論 経営情報システム論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ		監査論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ ネットワーク経営論 国際小売論 起業家育成講座Ⅱ ビジネスゲーム	各2	
	社会学 (注5)	社会調査法 社会調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論 障害者福祉論		経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 防災社会学		産業社会学 国際社会学 社会心理学 対人関係論 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論	各2	
	流通情報学 (注6)	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 情報応用システム論 情報科学Ⅰ・Ⅱ		ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ 通信ネットワーク概論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論		ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	各2	
	法学 (注7)	政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	各2	
	教養発展科目	英会話AⅠ・AⅡ 留学英会話Ⅰ・Ⅱ 選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ	各1 各1 各1 各1	英会話CⅠ・CⅡ 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ 選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1	英会話EⅠ・EⅡ 選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ 選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1			
卒業に必要な単位									124単位以上	

自由 科目	教養		リベラルアーツ入門		2		2		中・合計単位数29単位 高・合計単位数31単位
	資格 科目 (教員免許)	教育 師 史 論 <th>教育 相 程 談 <th>教育 課 程 論 <th>教育 方 法 学 <th>2 <th>教職 実 践 演 習 <th>2 </th></th></th></th></th></th>	教育 相 程 談 <th>教育 課 程 論 <th>教育 方 法 学 <th>2 <th>教職 実 践 演 習 <th>2 </th></th></th></th></th>	教育 課 程 論 <th>教育 方 法 学 <th>2 <th>教職 実 践 演 習 <th>2 </th></th></th></th>	教育 方 法 学 <th>2 <th>教職 実 践 演 習 <th>2 </th></th></th>	2 <th>教職 実 践 演 習 <th>2 </th></th>	教職 実 践 演 習 <th>2 </th>	2	
自由 科目	(健康運動指 導士・AT)	各2	教育 生 徒 指 導 論	2	教育 実 習 (中 学 校)	2	教育 実 習 (高 等 学 校)	2	健康運動指導士4単位 AT 10単位
			特 別 活 動 論	2	ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅲ	1	ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅳ	1	
			道 徳 教 育 論	2					
			ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅰ	1					
			ス ポ ー ツ 教 材 研 究 Ⅱ	1					
			機 能 解 剖 学 Ⅱ	各2	機 能 評 価 理 論 ・ 実 習	2	ア ス レ ィ ク ト レ ー ナ ー 実 習 Ⅱ (応 用)	1	
			運 動 負 荷 試 験	2	ア ス レ ィ ク ト レ ー ニ ン グ 理 論 ・ 実 習	2			
			健 康 づ く り 施 策 論	2	コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ 理 論 ・ 実 習 Ⅱ (機 械 別)	2			
					ア ス レ ィ ク ト レ ー ナ ー 実 習 Ⅰ (基 礎)	1			

(外) は外国人留学生の科目を示す。

(特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。

- (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡを履修しなければならない。
- (注2) この欄の左列の単位数を合計すると、6単位以上+16単位以上+14単位以上+12単位以上+10単位以上+9単位以上=67単位以上となり、90単位にはならない。不足分の23単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
- (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻〔経済学〕を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻〔経営学〕を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻〔社会学〕を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻〔流通情報学〕を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻〔法学〕を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
- (注9) アクセス検定合格による単位認定については、最高2単位です。

	ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1単位	漢字検定準2級 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことは検定3級 話しことは検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2単位	漢字検定2級 宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際1級 国内旅行業務取扱管理者 話しことは検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定マイクロ・マクロ(Aランク以上) ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-ADVANCE(シングルスター)
別記3	40	4単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

入学年度別教育課程表

(2013年度入学生 スポーツ健康科学科)

		1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		摘要			
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数				
必修科目		1 年演習(ゼミ)	4	2 年演習(ゼミ)	4	3 年演習(ゼミ)	4	4 年演習(ゼミ)	4	16単位	必修科目26単位を履修しなければならない。		
		情報基礎 I	2	スポーツ救急理論・実習 I		2				2単位			
		スポーツ健康科学概論	2							4単位			
		海浜実習	2				スポーツリーダー実習	2		4単位			
外国語(注1)		英語 A I・A II	各1	英語 D I・D II	各1					8 単位	英語8単位(外国人留学生は日本語8単位)を履修しなければならない		
		英語 B I・B II	各1	英語 E I・E II	各1								
		(外)日本語 A I・A II	各1	(外)日本語 C I・C II	各1								
		(外)日本語 B I・B II	各1	(外)日本語 D I・D II	各1								
キャリア科目	キャリア形成	R K U 入門	1	R K U 実践					1	6 単位以上	左記科目の中から90単位を履修しなければならない。(注2)		
		キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2								
				キャリアカウンセリング								2	
						(外)ビジネス日本語 I・II						各1	
			海外研修									2	
			資格取得	(別記1)								各1	
	社会・企業研究				(別記2)							各2	
					(別記3)							各4	
			(特)キャリア特講(基礎)	2	(特)キャリア特講(発展)	2	(特)キャリア特講(職業)	2					
			(特)グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特)グローバルコミュニケーション(発展)	1							
	進路支援		災害ボランティア I・II									各1	
					日本通運寄付講座 I・II	野村証券寄付講座	全国通運連盟寄付講座					各2	
					茨城県経営者協会寄付講座	ダイレクトマーケティング実践講座 (旧名称:日本通信販売協会寄付講座)	業界研究特別講座					各2	
					インターンシップ基礎	インターンシップ						各2	
	選 択 必 修 科 目	教養基礎科目	キャリア基礎(数理)		キャリア基礎(言語)	各1						各2	16 単位以上
キャリア発展(数理)			キャリア発展(言語)	各1									
					職業選択論			2					
					就職準備講座			1					
専 門 基 礎 科 目	言葉や思想に関する領域	哲学 I・II		論理学 I・II		教育学 I・II		心理学 I・II		14 単位以上			
		言語論 I・II		現代文章論 I・II		イスラム学 I・II		宗教学 I・II					
		(外)日本の思想											
		社会学 I・II		経済学 I・II		法学 I・II		人文地理学 I・II					
	社会や健康に関する領域	日本文化論 I・II		外国文化論(アジア) I・II		外国文化論(西欧) I・II							
		(外)日本の現在											
		数学 I・II		地球科学 I・II		生態学 I・II		自然環境論 I・II					
		物質科学 I・II		生命科学 I・II		自然地理学 I・II							
	歴史や文学に関する領域	文学(日本文学) I・II		文学(外国文学) I・II		歴史学入門(日本史) I・II		歴史学入門(東洋史)				12 単位以上	
		歴史学入門(西洋史)		民俗学 I・II		考古学 I・II		美術史 I・II					
		I	スポーツ哲学		スポーツ人類学		スポーツ専門英語						
		II	スポーツマネジメント論	各2	スポーツ社会学	各2	スポーツ史	各2					
スポーツ実技科目	III	スポーツ心理学	各2	スポーツ政策論	各2	スポーツ教育学	各2						
	I	スポーツ医学	各2	スポーツバイオメカニクス	各2	精神保健学	2						
	II	衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	各2	学校保健学	各2								
	III	機能解剖学 I	各2	健康教育学	各2								
I	IV	スポーツ栄養学 I	各2	スポーツ生理学	各2								
	II	スポーツ運動学	各2	コーチング論	各2	スポーツ技術・戦術論	各2						
	III	発育発達老化の理論・実習	各2	体力トレーニング論	各2	スポーツ情報戦略・分析論	各2						
	IV	メンタルトレーニング論	各2	メンタルトレーニング論	各2	アダプテッド・スポーツ論	各2						
II	III	体づくり運動	各1							2 単位以上	9 単位以上		
	IV	器械運動	各1							2 単位以上			
	I	陸上競技	各1							2 単位以上			
	II	水泳・水中運動	各1							2 単位以上			
III	IV	バスケットボール	各1							2 単位以上			
	I	サッカー	各1							2 単位以上			
	II	ラグビー	各1							2 単位以上			
	III	アメリカンフットボール	各1							2 単位以上			
IV	I	野球・ソフトボール	各1							2 単位以上			
	II	バレーボール	各1							2 単位以上			
	III	テニ	各1							2 単位以上			
	IV	パドミント	各1							2 単位以上			
I	II	卓球	各1							2 単位以上			
	III	柔剣	各1							2 単位以上			
	IV	道	各1							2 単位以上			
	I	道	各1							2 単位以上			
II	III	道	各1							2 単位以上			
	IV	道	各1							2 単位以上			
	I	道	各1							2 単位以上			
	II	道	各1							2 単位以上			
III	IV	道	各1							2 単位以上			
	I	道	各1							2 単位以上			
	II	道	各1							2 単位以上			
	III	道	各1							2 単位以上			
IV	I	道	各1							2 単位以上			
	II	道	各1							2 単位以上			
	III	道	各1							2 単位以上			
	IV	道	各1							2 単位以上			

	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		摘要	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数		
専門 発展 科目	I		トレーナー概論 リハビリテーション理論・実習Ⅰ(基礎) コンディショニング理論・実習Ⅰ(基礎)	各2	スポーツ救急理論・実習Ⅱ リハビリテーション理論・実習Ⅱ(応用) スポーツ外傷・障害と予防	各2				
	II	健康づくりとジョギング エアロビックダンス エアロビック運動の理論	2 1 2	健康管理学 健康づくりと運動プログラム スポーツ栄養学Ⅱ 測定評価理論・実習 ジョギング・ウォーキング	各2	トレーニング実習 健康産業施設等現場実習	各1			
	III	教育原理 安全教育(学校安全を含む) 教育社会学概論 教育心理学	各2	保健体育科教育法Ⅰ 教職特論演習Ⅰ 学校教育現場実習	2 2 1	保健体育科教育法Ⅱ 教職特論演習Ⅱ 教職特論演習Ⅲ	各2			
	IV			スポーツボランティア論・実習	2	スポーツプロモーション論・実習 テクニカルサポート論・実習 コーチング理論・実習	各2	スポーツマネジメントプログラム演習	4	
	V			スポーツと文化 スポーツと法 スポーツと国際協力	各2	スポーツと情報処理 スポーツと政治 スポーツとメディア	各2			
	VI			キャンプ実習 スキー・スノーボード実習 ニュー・スポーツ実習	各1	ライフセービング実習 ゴルフ実習	各1			
選 択 科 目	経済学 (注3)	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ		日本経済論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ	各2	左記科目の中から 90単位を履修 しなければならない。 (注2)
		経営学 (注4)	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ	各2	会計学Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ		管理会計論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論 マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論 経営情報システム論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ		監査論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ ネットワーク経営論 国際小売論 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ ビジネスゲーム	
	社会学 (注5)	社会調査法 社会調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論 障害者福祉論		経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 防災社会学		産業社会学 国際社会学 社会心理学 対人関係論 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行政と福祉計画論	各2	
	流通情報学 (注6)	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 情報応用システム論 情報科学Ⅰ・Ⅱ		ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ 通信ネットワーク概論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論		ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ ヒューマンインターフェイス論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	各2	
	法学 (注7)	政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 労働法Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	各2	
	教養 発展 科目	英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ			各1	
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ		留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)					各1	
選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ			選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ			
			選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ	各1		
				選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ				
卒業に必要な単位									124単位以上	

自由 科目	教養		リベラルアーツ入門		資格		健康		中・合計単位数29単位 高・合計単位数31単位
	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	
資格 科目	(教員免許)	教道徳教育史論	各2	教育相談 教育課程論 教育指導論 特別活動論 スポーツ教材研究Ⅰ スポーツ教材研究Ⅱ	2 2 2 2 1 1	教育方法学 介護入門(選択) 教育実習(事前指導) スポーツ教材研究Ⅲ スポーツ教材研究Ⅳ	2 2 1 1 1	教職実践演習 教育実習(中学校) 教育実習(高等学校)	2 4 2
		健康運動指導士(AT)		機能解剖学Ⅱ 運動負荷試験論 健康づくり施策論	各2	機能評価理論・実習 アスレティックトレーニング理論・実習 コンディショニング理論・実習Ⅱ(競技別) アスレティックトレーナー実習Ⅰ(基礎)	2 2 2 1	アスレティックトレーナー実習Ⅱ(応用)	1
健康運動指導士4単位 AT 10単位									

(外) は外国人留学生の科目を示す。

(特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。

- (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡを履修しなければならない。
- (注2) この欄の左列の単位数を合計すると、6単位以上+16単位以上+14単位以上+12単位以上+9単位以上=67単位以上となり、90単位にはならない。不足分の23単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
- (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

	ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1単位	漢字検定準2級 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャルリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャルリストレベル)/MCAS(Excel) ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2単位	漢字検定2級 宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定ミクロ・マクロ(Aランク以上) ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-ADVANCE(シングルスター)
別記3	40	4単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

履修の手引

履修の手引

この履修要綱は、基本的に春学期入学の学生を対象としたものです。秋学期入学の学生は、別の資料も参照してください。

1. セメスター制

本学では、セメスター制を採用しています。セメスター制とは、学年を春学期と秋学期とに分け、基本的にはそれぞれの学期（セメスター）で単位を修得し、卒業にいたる制度です。

2. 単位制

単位制とは、「教育課程表」に記載されている科目を履修し、科目ごとに定められている単位を修得して、原則として4年間のうちに、卒業に必要な単位を修得する制度です。

(1) 単位の計算方法

単位は、講義科目を基本として1単位あたり45時間の学修を必要とする内容で構成されています。2単位の授業科目は、90時間の学修時間が必要という意味です。この内、1/3は授業時間内の学修に、2/3が授業時間外の予習・復習に当てられています。単位数の多い科目は、予習・復習にそれだけ多くの学修時間をかけなければなりません。

(2) 科目の単位数

科目の単位数は、1単位、2単位、4単位のいずれかであり、「教育課程表」および履修要綱に記載されています。

授業は基本的に週1回行われ、その授業形態によって、下記のように単位数が決められています。

- 1) 演習（ゼミ）：通年の30回の授業で4単位。
- 2) 外国語科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位。
- 3) 体育科目・スポーツ実技科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位。
- 4) 情報科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。
- 5) 講義科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。
- 6) 実習科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。

3. 最高履修単位数

年間の最高履修単位数は下表の通りです。

入学年度	学部	経済	社会	流通情報	法	スポーツ健康科学
2010以降		1・2学年 44	3・4学年 49			

- ・ 入学生の各学期の最高履修単位数は、1・2学年は26単位、3・4学年は28単位です。ただし、1・2学年では年間の最高履修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。3・4学年では年間の最高履修単位数は49単位ですので、片方の学期で28単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は21単位となります。

4. 3学年進級に必要な単位数

2学年終了時において、1年演習（ゼミ）・2年演習（ゼミ）を含め、40単位に達している場合に3学年への進級を認めます。

- ・「教育課程表」以外の科目で修得した単位は、3学年進級に必要な単位数には含まれません。
- ・2年演習（ゼミ）の単位を修得できなかった場合でも、1年演習（ゼミ）の単位を修得した上で、上記の表で示した単位数を満たしていれば、3学年へ進級できます。ただし、卒業までに2年演習（ゼミ）の単位を修得しなければなりません。

5. 卒業

(1) 修業年限

4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生は、「卒業」となります。卒業に必要な所定の単位が修得できずに4年の在学年数を超えて在籍する学生は、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業となります。~~が、履修登録時に届出をすることにより、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業することもできます。~~なお、卒業に必要な単位を満たした上で4年を超えて在学することはできません。

秋学期入学の学生も、卒業に必要な修業年限・単位は春学期入学の学生と変わりません。

(2) 学位

卒業した学生には、次の区分に従い「卒業証書・学位記」を授与します。

学部	学科	学位
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
社会学部	社会学科	学士（社会学）
	国際観光学科	学士（社会学）
流通情報学部	流通情報学科	学士（流通情報学）
法学部	ビジネス法学科	学士（法学）
	自治行政学科	学士（法学）
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）

(3) 副専攻の認定

副専攻に関する所定の要件を満たした学生には、卒業時に「副専攻」を認定します。対象となる学部・学科および入学年度は、次の通りです。

学部・学科	経済		社会	流通情報	法	スポーツ健康科学
	経済	経営				
認定される副専攻	経営学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 社会学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 法学 社会学

(4) 卒業発表

卒業発表は、毎年3月および9月に行います。電話・メールなどによる問い合わせには応じられません。

(5) 卒業式

卒業が決定した学生は、卒業式に出席し、学生証と引き換えに「卒業証書・学位記」を受け取ってください。

6. 科目の履修

科目の履修に際しては、教室で授業を受けるだけでなく、シラバスや教室での指導に基づいて自主的に予習・復習をしてください。また、指定された参考図書などについても学習してください。

(1) 科目の区分

各学年の学生が履修すべき科目は、「教育課程表」に記載されています。

必修科目：非常に重要度の高い科目であり、指定された学年に必ず履修しなければならない科目です。指定された学年で修得できなかった場合には、原則として次年度に必ず履修しなければならない科目です。

選択必修科目：必修科目に次いで重要度の高い科目であり、教育課程表の摘要欄に記されている条件を満たすように科目を選択して、履修しなければならない科目です。

選択科目：必ず履修しなければならない科目ではなく、自由に選択して履修することができる科目です。履修すれば卒業単位に算入されます。

自由科目：成績表には記載されますが、卒業単位には算入されない科目です。また、各学年の最高履修単位数にも算入されません。ただし、スポーツ健康科学部の開講科目を他学部から自由科目として履修することはできません。

(2) 履修登録（事前登録）

科目の履修にあたっては、事前に登録をしなければなりません。この登録が完了した時点で、科目の履修が確定し、各自の時間割が決定します。ただし、一部、登録が必要でない科目もあります。

- 1) 各科目の時間割、担当教員等については、3月に発表します。履修ガイダンスに出席し、各自であらかじめ履修したい科目を決めておき、定められた期間に履修登録を行ってください。
- 2) 指定された期間に履修登録手続を怠った場合や誤った登録をした場合、その年度の履修は無効となります。
- 3) 履修登録は、Ring（RKU Interchange for Groups）で行います。

7. 単位の修得

- 1) 履修登録した科目に対してのみ単位の修得が認められます。未登録科目を履修しても単位は与えられません。ただし、別に定めるところにより、単位の修得を認めることがあります（単位の認定）。
- 2) 登録した科目について、「S・A・B・C」いずれかの成績評価が付与された場合に、当該科目の単位の修得が認められます。「D」（不合格）または「/」（評価不能）が付与された場合には、当該科目の単位の修得は認められません。
- 3) 単位は、各学期（春・秋）ごとに与えられます。演習などの通年授業科目の単位は、春学期および秋学期の成績を総合して付与されます（片方の学期だけ履修しても単位は与えられません）。
- 4) 単位を修得できなかった科目については、再履修してください。ただし、必修以外の科目については、別の科目を選択し、履修しても構いません。
- 5) 一度単位を修得した科目（成績の付与された科目）については、再度履修して単位を取り直すことはできません。

せん。

8. 休講と補講

休講の案内は、Ringで行います。休講となった場合には補講が行われます。補講は、原則として、当該授業のある曜日の5時限または土曜日の午前・午後（龍ヶ崎キャンパス）、6時限または土曜日の午後（新松戸キャンパス）に行われます。補講の詳細については、Ringに掲載します。

9. 出席調査

授業では出席を調査します。出席調査は、パソコン・スマートフォン・携帯電話、出席カードや提出物等により行います。インターネットやWi-Fiに接続できるパソコン・スマートフォン・携帯電話等を準備してください。

10. 災害時の授業

台風や大雪、あるいは地震などにより大きな災害が発生した場合には、電車やバス等の公共交通機関が運行できなくなる事態が予測されます。その場合には、その都度、授業を実施するか否かを発表しますので、各自以下の方法で確認してください。

- 1) Ring <https://ring.rku.ac.jp/>
- 2) 災害時連絡ダイヤル 0297-64-0009

11. 試験

(1) 定期試験

- 1) 定期の試験として、春学期試験と秋学期試験があります。
春学期試験 7月下旬～8月上旬（約2週間）
秋学期試験 1月下旬～2月初旬（約2週間）
- 2) 試験時間割と注意事項は、各試験の1週間前までに発表しますので、各自で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

- 1) 学生証は必ず携帯し、試験監督者が見やすい場所（机の上）に常に置いてください。学生証を提示しない者は受験できません。学生証を忘れた者は、学生生活課（龍ヶ崎）・学務課（新松戸）で、一日有効の仮学生証（有料）を発行してもらい受験してください。
- 2) 遅刻は、試験開始後20分以内に限り認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 3) 試験場からの退場は、試験開始後30分以内は許可しません。
- 4) 試験中は、携帯情報端末等（携帯電話・スマートフォン・通信機能付き電子辞書等）の電源を切り、カバン、バッグなどの中に入れておいてください。（時計・辞書の代わりにはできません）
- 5) 試験場における行動は、すべて試験監督者の指示に従ってください。**指示に従わない場合は不正行為となります。**
- 6) 試験中（定期試験および定期試験以外）に不正行為があった場合には、「試験規則」第8条により処置します。
不正行為とは、次のような行為です。
 - ・他の学生の答案を見ること。
 - ・他の学生とコミュニケーション（話、目くばせなど）をとること。
 - ・カンニング・ペーパーを持ち込み、それらを見ること。
 - ・許可されていないコピー、テキストなどを持ち込み、それらを見ること。

- ・通信機器を用いて外部と連絡をとること。
- ・あらかじめ机に試験に関する事項を書いておき、それらを見ること。
- ・本人以外の者が代理で受験をすること。
- ・他の学生と物品の貸し借りをすること。
- ・答案用紙を教室外に持ち出すこと。
- ・その他、適正な成績評価を妨げる行為を行うこと。

(3) 追試験

定期試験に欠席した場合には、「試験規則」第4条、第5条により、追試験を願い出ることができます。追試験の願い出は、欠席した試験が行われた日から起算して7日以内に行わなければなりません。できるだけ早い時期に、必要な公的証明書などを添付して、教務課・学務課に申し出てください。入院等により登校できない場合には、教務課・学務課に電話連絡をして指示を受けてください。

(4) 再試験

再試験は原則として行いません。ただし、卒業該当年次生で、卒業に必要な単位が不足する学生に対して、次の要件をすべて満たす場合に限り、再試験の受験を認めることがあります。

- 1) 卒業に必要な単位数が不足する場合、その不足科目が4科目以内であること。ただし、5年以上在籍した学生の卒業に必要な単位数が不足する場合には、その不足科目が6科目以内であること。
- 2) 卒業年次に履修登録が行われている科目であること。
- 3) 出席不良等の理由で評価不能とされた科目でないこと。
- 4) 本人の申請があること。

(5) レポート提出に関する注意事項

担当教員の指示によりレポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

- 1) 指示した期限までに指定場所に提出してください。期限後の提出は無効となります。
- 2) 特別の指示のない限り、A4版の用紙を使用し、とじてください。表紙には、科目名、担当教員名、課題、学生番号および氏名を黒インクで明記してください。

12. 不正行為

試験、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正をしてはいけません。試験中に不正行為があった場合は、「試験規則」第8条により処置します。また、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正があった場合は、「試験規則」第8条に準じて処置することがあります。

13. 成績評価

- 1) 成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、論文、レポート、口述試験、実技テスト）およびその他担当教員の指定する方法によって評価されます。
- 2) 成績は、100点法によって評価され、60点（2012年度以前入学生は50点）以上を合格とし、所定の単位が与えられます。

適用年度	2013年度以降入学生適用			
合格評価	「S」 (90点以上)	「A」 (80点～89点)	「B」 (70点～79点)	「C」 (60点～69点)
不合格評価	「D」 (59点以下)	「/」 (評価不能)		

適用年度	2012年度以前入学生適用			
合格評価	「S」 (90点以上)	「A」 (80点～89点)	「B」 (60点～79点)	「C」 (50点～59点)
不合格評価	「D」 (49点以下)	「/」 (評価不能)		

ただし、100点法によらず単位が認定される科目もあります。

単位認定「R」

- 3) 成績表は各学期終了後に交付します。ただし、通年科目（演習など）はその学年終了後に交付します。
- 4) 成績表は、各学期終了後に保証人（父母）宛に郵送します。
- 5) 成績に関して質問のある学生は、「成績確認願」を教務課・学務課に提出し、その成績の確認を求められます。

14. GPA

本学では、GPA（グレード・ポイント・アベレージ：履修科目の成績の平均値）を算出する制度を定めています。GPAは、学生の学習意欲を高めるとともに、本学が掲げる教育の質の保証についての具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的としています。

1) GPAの算出方法

GPAは、GPA対象授業科目のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にグレードポイント（4、3、2、1、0のいずれか）をかけ、その合計ポイントを単位数の総和で割ったものとなります。

2) グレードポイント

成績評価に対するグレードポイントは下表の通りです。

S	4
A	3
B	2
C	1
D	0
/	0
R	適用除外

3) GPA対象授業科目と適用除外科目

適用除外科目を除くすべての授業科目がGPAの対象となります。

以下の科目は適用除外科目です。これらの科目にはグレードポイントが付加されず、修得単位や成績はGPAの計算には使用しません。

- 1 合格か不合格かだけを判定する授業科目（R認定）
- 2 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4 他大学との単位互換等で修得した科目

4) GPAの活用

GPAは、本学大学院の内部推薦基準、特別奨学生の採用基準、また学修指導や退学勧告の資料として利用されます。

15. 単位の認定

本学では、大学での正規の授業以外に、学生のキャリア開発に関連する諸活動や公的機関による資格・検定試験の合格などに単位を認定する制度を整えています。なお、各検定試験の合格証明書は、申請日から過去3年間のものを有効とします（2013年度入学生から適用）。これらについての履修登録は必要なく、それぞれの認定要件を満たした段階で申請すると、単位が認定されます。認定される単位数は、合計で60単位までです。また、認定された単位数（スポーツトレーニング実技を除く）は、学年別の最高履修単位数には含まれません。

(1) 外国語科目の単位認定

公的な機関による下の表に記した検定試験などで基準点以上の成績を修めた者が、所定の手続きを経て、その合格証（成績表・認定証など）を提出した場合には、外国語科目を履修したものとみなし、その単位を認定します。

認定科目と試験の種類			認定単位数				
			1単位認定	2単位認定	4単位認定	6単位認定	8単位認定
英語	英語検定	日本英語検定協会	準2級	2級	準1級		1級
英語	TOEIC	ETS	400点以上	450点以上	550点以上		700点以上
英語	TOEIC Bridge	ETS	150点以上				
英語	TOEFL	ETS		450点以上	500点以上		550点以上
英語	TOEFL IBT	ETS		45点以上	61点以上		79点以上
中国語	中国語検定	日本中国語検定協会		準4級	4級		3級以上
中国語	漢語水平考試	漢語水平考試委員会		2級以上	4級	5級	6級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会		4級	3級		2級以上
フランス語	フランス語技能検定	フランス語教育振興協会		4級	3級		2級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	日本スペイン協会		6級	5級以上		3級以上
日本語	日本語能力	日本国際教育支援協会	2級、N2	1級、N1			
日本語	J.TEST実用日本語検定	日本語検定協会	600点以上	700点以上			
日本語	日本留学	日本学生支援機構		260点以上			

・ TOEICおよびTOEFLの基準点は変更する場合があります。

・ TOEICには「一般公開テスト」（SP）と「団体特別受験」（IP）の2種類があります。

* 「一般公開テスト」がいわゆるTOEICで、TOEIC運営委員会とアメリカの公的機関であるETS（Educational Testing Service）により正式な認定証が発行されます。

* 「団体特別受験」は各企業・大学が責任をもって実施する試験で、正式な認定証は発行されませんが（ただし、TOEIC運営委員会と実施団体による認定証は発行されます）。

* 本学では、「一般公開テスト」「団体特別受験」のどちらのスコアでも単位認定の対象とします。

1) 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。

2) 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教

務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。

- 3) 同一の外国語で複数の試験・級に合格した場合は、最上位の試験・級のみが単位認定の対象となります。すでに異なる試験・級・得点により単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数です。

認定を受けられる単位数は、最高で8単位です。

- 4) 認定される外国語科目は学部により異なりますので、教務課・学務課にて確認してください。
- 5) 日本語の単位認定を行う場合は、外国語科目の「日本語」各科目のほか、キャリア科目の「(外)ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ」をも認定科目とした上で、当該学生の単位未修得科目の中から、日本語A・B・C・D各Ⅰ・Ⅱ、(外)ビジネス日本語の順序で単位認定を行うものとします。

(2) スポーツトレーニング実技の単位認定（スポーツ健康科学部は除く）

重点部に所属する学生について、課外活動状況により「選択スポーツトレーニング実技」を履修したものとみなし、その単位を認定します。

- 1) 対象学生は、ラグビーフットボール部、剣道部（男・女）、柔道部、サッカー部、陸上競技部（長距離）、アメリカンフットボール部、硬式野球部に所属する学生（マネージャーは除く）です。
- 2) 単位認定を希望する学生は、所定の申請書を作成し、所属する部に提出してください。各部で集約した申請書は、体育指導センターを通して、教務課へ提出されます。
- 3) 単位の認定は、①重点部の活動状況、②部活動への出席状況、③部の練習態度、④部の戦績などをチェックして、体育指導センターが原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 1学年の春学期に1単位、秋学期に1単位を認定します。1学年で認定されなかった場合には、それ以降の学年で単位認定を申請することができます。

(3) 法学関連科目の単位認定

法学検定およびビジネス実務法務検定試験に合格した学生に、下記の通り単位の認定をします。

認定科目と検定試験の種類		認定単位数	4単位認定	6単位認定	8単位認定
(法学部の2008年度～2012年度入学生)	(法学部の2013年度以降入学生)	法学検定	ベーシック <基礎> コース (旧4級)	スタンダード <中級> コース (旧3級)	アドバンスト <上級> コース (旧2級)
スポーツと法Ⅰ・Ⅱ	スポーツと法				
法と文化(アジア)Ⅰ・Ⅱ	法学特殊講義(私法)Ⅰ・Ⅱ	ビジネス 実務法 務検定	東京 商工 会議所	3級	2級
法と文化(欧米)Ⅰ・Ⅱ	法学特殊講義(公法)Ⅰ・Ⅱ				
現代社会と法Ⅰ・Ⅱ	現代社会と法Ⅰ・Ⅱ				
(経済・社会・流通情報学部の学生)	法学特殊講義Ⅰ・Ⅱ				
学部共通科目の法学分野の科目					

- 1) 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- 2) 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合

は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。

- 3) 法学部の学生については、上の表に示した科目から認定します。
- 4) 経済・社会・流通情報学部の学生については、学部共通科目の法学分野の科目から認定します。スポーツ健康科学部の学生のうち、2009年度以前の入学生については、副専攻科目・法学の各科目から、2010年度以降の入学生については、学部共通科目の法学分野の科目から、それぞれ認定します。
- 5) 同一の検定試験で複数の級に合格した場合には、上位の級のみが単位認定の対象となります。異なる級の合格によりすでに単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数とします。
- 6) 認定を受けられる最高単位数は、総計8単位とします。

(4) 外国留学

本学の「留学に関する規則」に基づき、外国留学をした学生（外国人留学生を除く）に、留学中の学修内容を審査した上で、教育課程表にある科目の単位認定を行います。

- 1) 外国留学を希望する学生は、留学2ヶ月前までに「留学願」を学長に提出し、国際交流センターの承認を受けてください。
- 2) 単位認定を希望する学生は、留学先からの「出席状況および成績に関する証明書」、「修了証」等を添付し、「単位認定願」を学長に提出してください。
- 3) 単位の認定は、国際交流センターの小委員会が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 留学期間中の「演習」については、担当教員と留学者がインターネット等を利用して、相互に緊密な連絡を取り合ってください。担当教員は留学者に対して必要な教育、指導を行い、単位を付与します。演習の単位は認定単位には含めません。
- 5) 外国留学をした学生には、「海外研修」(2単位)の単位認定も行われます。

(5) キャリア科目の単位認定

一部のキャリア科目について単位認定を行いません（スポーツ健康科学部は2010年度以降の入学生）。

- 1) 単位認定を行う科目には、「R K U入門」、「R K U実践」、「海外研修」、「インターンシップ（海外）」、「就職準備講座」、資格関連科目である「資格一般」、「資格基礎」、「資格専門」があります。
- 2) 単位認定の方法、認定単位数などについては、「履修の方法」のキャリア科目の項を参照してください。

16. 他キャンパス受講

原則として週1日に限り、他キャンパスで開講される科目の受講を認めることがあります。他キャンパス受講を希望する学生は、履修登録時に教務課・学務課に申請してください。

17. 履修の方法

(1)科目の履修

各学年の学生が履修すべき科目は、「学年別教育課程表」に記載されています。

(2)必修科目

必修科目とは、定められた配当学年において必ず履修しなければならない授業科目です。指定された学年で修得できなかった場合、原則として次年度に履修しなければなりません。なお、必修科目は、下の表の各科目と演習です。

- 情報基礎 I
- 外国語
- スポーツ健康科学概論
- スポーツ救急理論・実習 I
- 海浜実習
- スポーツリーダー実習

【演習（ゼミ）】

(a) 1年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成し、所属クラスは入学時に指定します。1年ゼミの未修得者は、3学年に進級できません。

(b) 2年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。2年ゼミの選択は、1学年の秋学期に行います。各ゼミの指導計画を選択申込の前に発表します。それらを熟読の上、自由に選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。ゼミによっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。第1希望のクラスに入れなかった場合には、2回目の選択申込により、定員に満たないクラスの中から、履修するクラスを決定することになります。

(c) 3年演習（ゼミ）

4年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員のゼミを履修します。ゼミの選択は、2学年の秋学期に行います。一度履修したゼミは変更することはできません。ゼミ選択は、自分の研究テーマに沿って行ってください。ゼミの決定方法は、上記の「2年ゼミ」の場合と同様です。**3年ゼミと4年ゼミは、原則として同一学年で履修することはできません。ゼミの単位を修得できなかった場合には、留年となります。**

【英語】

1学年において、「英語A I・A II」、「英語B I・B II」(各1単位) 4単位を履修し、2学年においては、「英語D I・D II」「英語E I・E II」(各1単位) 4単位の合計8単位を履修します。

【日本語】

外国人留学生は、1学年において「(外)日本語A I・A II」、「(外)日本語B I・B II」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語C I・C II」、「(外)日本語D I・D II」(各1単位)の4単位の合計8単位を履修します。

(3)選択必修科目

選択必修科目とは、教育課程表の摘要欄に記されている条件を満たすように科目を選択し、履修する科目です。

1) キャリア科目

キャリア科目から選択して、6単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われる演習(ゼミ)、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、演習(ゼミ)担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) RKU実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② **活動の3週間前に「RKU実践活動届」を教務課・学務課に提出してください。**
- ③ ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ④ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ⑤ 単位認定を希望する場合は、「RKU実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU実践活動証明書」を添えて学務課・教務課へ提出してください。
- ⑥ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

(c) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(d) 資格取得

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ① 資格・検定試験の種類により、入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある10ポイントを1単位として単位を認定します。
- ② 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては、次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③ 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- ④ 卒業単位として認められる単位は最大8単位です。

(e) 災害ボランティアⅠ・Ⅱ

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。(ただし、社会学科は除きます。)

- ① 災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ② 単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」(受け入れ機関・団体の証明)を添えて学務課・教務課へ提出してください。

(f) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ① 単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ② 1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③ 3学年の秋学期に1単位を認定します。

(g) その他講義科目

(4)スポーツマネジメントプログラム修了証

学士(スポーツ健康科学)に加えて、次に示す指定の科目を全て修得した学生に「副専攻修了証」と「スポーツマネジメントプログラム修了証」を授与します。

スポーツマネジメントプログラムの指定科目

学 年	スポーツ健康科学科指定科目	経営学科指定科目
2年生～3年生	スポーツマネジメント論 スポーツ心理学 コーチング論 スポーツ社会学 発育・発達老化の理論・実習 体力トレーニング論 スポーツプロモーション論・実習 スポーツボランティア論・実習 スポーツと国際協力 キャンプ実習* スキー・スノーボード実習* ゴルフ実習* * 3科目のうち2科目 以上、合計 20 単位	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 会計学Ⅰ・Ⅱと流通論Ⅰ・Ⅱのうち一つ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論 ビジネスゲーム 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ 以上、合計 20 単位
4年生	スポーツマネジメントプログラム演習	

本修了証は、スポーツ健康科学部カリキュラム(課程表)に記載されている科目の中で指定された科目(11科目)と学部共通科目の経営学の中で指定された科目(10科目)に加え、4年次にスポーツマネジメントプログラム演習(4単位)の合計44単位を修得した学生に授与されます。

本プログラムの修了を希望する場合、履修できる者は3年生春学期終了までの成績が優秀な者に限ります。

また、3年生秋学期の履修登録期間中に教務課窓口にて、「スポーツマネジメントプログラム演習申込書」を受け取り、記入の上、提出してください。

(5)資格科目

教育職員免許状(教育免許)とアスレチックトレーナー資格の取得に必要な科目の一部が配置されています。

いずれも卒業に必要な単位数には含まれません。

18. 卒業に必要な総単位数

卒業するのに必要な必修科目、選択必修科目の合計単位数は、以下の通りです。

必修科目	演習 16単位 情報科目 2単位 コア科目 8単位	26単位	選択必修科目、選択科目の中から左記以外に23単位以上選択
外国語科目		8単位	
キャリア科目		6単位以上	
教養基礎科目		16単位以上	
専門基礎科目		36単位以上	
スポーツ実技科目		9単位以上	
専門発展科目 学部共通科目（副専攻） 教養発展科目			
合計		124単位	
自由科目（資格科目）		（卒業単位には含まれません）	

19. 履修モデル（学びの分野）

この履修モデルは、履修する科目の一例を示した「モデル」にすぎません。これらに示されている科目以外は履修できないというものでは決してありません。学生の皆さんは、これら5つの履修モデルの中から将来の進路希望に応じて1つを選び、自分なりの履修モデルを作成し、希望実現のために体系的に勉強してください。

【全般的な注意事項】

①履修モデル以外の科目も履修する必要があります

履修モデルでは、1学年から4学年までの各学年にどのような科目を履修すればよいかを示してあります。そこに示された科目を履修し、単位を取得すれば卒業に必要な124単位以上になるようになっています。しかし、これは希望する進路に進むために必要な最低限度の科目を示しているにすぎませんから、皆さんの関心や必要に応じて履修モデルに示されている科目以外の科目も積極的に履修してください。また、課外講座にも参加して、さまざまな知識を身につけてください。

②履修モデル通りの履修ができないときは変更することも可能です

科目ごとに履修できる人数の上限が決められていますし、必要な科目が同じ時間に開講されていることもあるかもしれませんから、履修モデルが示している通りに履修できないこともあるかもしれません。そのような場合には、2学年で履修することとされている科目を3学年で履修するといったように、履修学年が前後しても構いません。

履修モデル（学びの分野）

スポーツ教育

資格：中高教諭一種免許状（保健体育）

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
必修科目	1年演習（ゼミ） 情報基礎Ⅰ スポーツ健康科学概論 海浜実習	2年演習（ゼミ） スポーツ救急・理論実習Ⅰ	3年演習（ゼミ） スポーツリーダー実習	4年演習（ゼミ）
外国語	英語 AI・AII 英語 BI・BII	英語 DI・DII 英語 EI・EII		
キャリア科目	キャリア科目群より6単位以上履修すること			
教養基礎科目	教養科目群より16単位以上を履修すること			
専門基礎科目	I	スポーツ哲学 スポーツマネジメント論	スポーツ政策論 スポーツ社会学 スポーツ人類学	スポーツ教育学 スポーツ政策論
	II	スポーツ医学 衛生・公衆衛生学	学校保健学 保健教育学 スポーツ生理学	精神保健学
	III	スポーツ運動学 発育発達老化の理論・実習	コーチング論 体力トレーニング論	アダプテッド・スポーツ論
スポーツ実技科目*	I	水泳・水中運動 陸上競技	器械運動	
	II	野球・ソフトボール サッカー		
	III	バスケットボール バレーボール		
	IV	柔道	ダンス	
専門発展科目	教育原理 教育社会学概論 安全教育 教育心理学 (学校安全を含む)	保健体育科教育法Ⅰ 学校教育現場実習	保健体育科教育法Ⅱ 教職特論演習Ⅰ 教職特論演習Ⅱ スポーツ外傷・障害と予防	教職特論演習Ⅲ
学部共通科目		憲法Ⅰ		
自由科目	道徳教育論 教育史 教師論	教育相談 特別活動論 生徒指導論 スポーツ教材研究Ⅰ スポーツ教材研究Ⅱ 教育課程論	教育方法学 介護入門(選択) 教育実習(事前) スポーツ教材研究Ⅲ スポーツ教材研究Ⅳ	教職実践演習 教育実習(中学校) 教育実習(高等学校)

※教職課程を希望する学生は、すべてのスポーツ実技科目を履修することが望ましい。

スポーツコーチング

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
必修科目	1年演習（ゼミ） 情報基礎Ⅰ スポーツ健康科学概論 海浜実習	2年演習（ゼミ） スポーツ救急・理論実習Ⅰ	3年演習（ゼミ） スポーツリーダー実習	4年演習（ゼミ）
外国語	英語 AI・AII 英語 BI・BII	英語 DI・DII 英語 EI・EII		
キャリア科目	キャリア科目群より6単位以上履修すること			
教養基礎科目	教養科目群より16単位以上を履修すること			
専門基礎科目	I	スポーツ哲学 スポーツマネジメント論	スポーツ人類学 スポーツ社会学 スポーツ心理学	スポーツ専門英語 スポーツ教育学
	II	スポーツ医学 衛生・公衆衛生学	スポーツバイオメカニクス 機能解剖学Ⅰ	健康教育学
	III	スポーツ運動学 発育発達老化の理論・実習	コーチング論 体力トレーニング論 メンタルトレーニング論	スポーツ情報・分析論 スポーツ技術・戦術論
スポーツ実技科目*	I	体づくり運動 陸上競技		
	II	野球・ソフトボール ラグビー	アメリカンフットボール	
	III	バスケットボール 卓球		
	IV	剣道	柔道	
専門発展科目		スポーツと文化 スポーツと法 スポーツボランティア論・実習	スポーツと情報処理 スポーツ外傷・障害と予防 コンディショニング スポーツとメディア 理論・実習Ⅰ（基礎） スポーツプロモーション論・実習 コーチング理論・実習	スポーツと国際協力
教養発展科目	英会話 AI 英会話 AII			
自由科目				

※将来コーチや指導者を希望する学生は、すべてのスポーツ実技科目を履修することが望ましい。

スポーツプロモーション

資格：健康運動指導士、健康運動実践指導者

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	1年演習(ゼミ) スポーツ健康科学概論 情報基礎I 海浜実習	2年演習(ゼミ) スポーツ救急理論実習I	3年演習(ゼミ) スポーツリーダー実習	4年演習(ゼミ)
外国語	英語AI・AII 英語BI・BII	英語DI・DII 英語EI・EII		
キャリア科目	キャリア科目群より6単位以上履修すること			
教養基礎科目	教養科目群より16単位以上を履修すること			
専門基礎科目	I	スポーツ哲学 スポーツマネジメント論 スポーツ心理学	スポーツ社会学 スポーツ政策論	スポーツ教育学 スポーツ史
	II	スポーツ医学 衛生・公衆衛生学 機能解剖学I	スポーツバイオメカニクス 健康教育学 スポーツ生理学	精神保健学
	III	スポーツ栄養学I 発育発達老化の理論・実習	コーチング論	スポーツ技術・戦略論 体力トレーニング論
スポーツ実技科目	I	体づくり運動	陸上競技 水泳・水中運動	
	II	野球・ソフトボール アメリカンフットボール		
	III	バスケットボール バドミントン	卓球	
	IV	ダンス		
専門発展科目	健康づくりとジョギング エアロビクスダンス エアロビクス運動の理論	健康管理学 健康づくりと運動プログラム 測定評価理論・実習 ニューススポーツ実習	健康づくりと運動プログラム ジョギング・ウォーキング	トレーニング実習 健康産業施設等現場実習 スポーツ救急理論・実習II スポーツ外傷・障害と予防 スポーツプロモーション論実習 テクニカルサポート論・実習
教養発展科目				
自由科目		健康づくり施策論 運動負荷試験		

スポーツトレーナー

資格：アスレティックトレーナー、トレーニング指導者資格

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	1年演習(ゼミ) 情報基礎I スポーツ健康科学概論 海浜実習	2年演習(ゼミ) スポーツ救急理論実習I	3年演習(ゼミ) スポーツリーダー実習	4年演習(ゼミ)
外国語	英語AI・AII 英語BI・BII	英語DI・DII 英語EI・EII		
キャリア科目	キャリア科目群より6単位以上履修すること			
教養基礎科目	教養科目群より16単位以上を履修すること			
専門基礎科目	I	スポーツ哲学 スポーツマネジメント論	スポーツ心理学 スポーツ人類学 スポーツ政策論	スポーツ専門英語 スポーツ史 スポーツ社会学
	II	スポーツ医学 衛生・公衆衛生学 機能解剖学I	スポーツバイオメカニクス 体力トレーニング論 スポーツ生理学	精神保健学
	III	スポーツ運動学 発育発達老化の理論・実習 スポーツ栄養学I	コーチング論 スポーツ心理学	スポーツ情報・分析論 体力トレーニング論 スポーツ技術・戦術論
スポーツ実技科目	I	体づくり運動 水泳・水中運動	陸上競技	
	II	野球・ソフトボール サッカー		
	III	テニス バドミントン		
	IV	剣道	新体操	
専門発展科目	健康づくりと運動プログラム エアロビクス運動の理論	健康管理学 トレーナー概論 スポーツ栄養学II エアロビクスダンス	トレーニング概論 コンディショニング理論・実習I	スポーツ外傷・障害と予防 リハビリテーション理論・実習II スポーツ救命理論・実習II 測定評価理論・実習 リハビリテーション理論・実習I テクニカルサポート論・実習
自由科目		機能解剖学II	機能評価理論・実習 アスレティックトレーニング理論実習 コンディショニング理論・実習II アスレティックトレーナー実習I(基礎)	アスレティックトレーナー実習II(応用)

スポーツ教養

修了証：スポーツマネジメントプログラム

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
必修科目	1年演習(ゼミ) 情報基礎I スポーツ健康科学概論 海浜実習	2年演習(ゼミ) スポーツ救急理論実習I	3年演習(ゼミ) スポーツリーダー実習	4年演習(ゼミ)
外国語	英語AI・AII 英語BI・BII	英語DI・DII 英語EI・EII		
キャリア科目	キャリア科目群より6単位以上履修すること			
教養基礎科目	教養科目群より16単位以上を履修すること			
専門基礎科目	I	スポーツ哲学 スポーツマネジメント論	スポーツ人類学 スポーツ社会学 スポーツ心理学	スポーツ専門英語 スポーツ政策論
	II	スポーツ医学 衛生・公衆衛生学	スポーツバイオメカニクス 機能解剖学I スポーツ生理学	健康教育学
	III	スポーツ運動学 発育発達老化の理論・実習	コーチング論 体力トレーニング論	スポーツ情報・分析論 アダプテッドスポーツ論
スポーツ実技科目	I	体づくり運動 陸上競技		
	II	野球・ソフトボール ラグビー		
	III	バスケットボール 卓球		
	IV	剣道 ダンス	柔道	
専門発展科目		スポーツと文化 スポーツと法 スポーツボランティア論・実習	スポーツと情報処理 コーチング理論・実習 スポーツプロモーション論・実習	スポーツと国際協力 スポーツとメディア
学部共通科目	副専攻(経済学、経営学、社会学、流通情報学、法学) 各副専攻科目群より20単位以上修得する必要がある。			
教養発展科目	英会話AI 英会話AII			
自由科目				

20. 「スポーツ教材研究」科目について

各スポーツ教材研究の履修希望者は、当該科目を履修する前年もしくは、履修当該年度の春学期までに各実技科目を履修していることが望ましい。

21. 資格の取得について

(1) 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団公認「健康運動指導士」

健康運動指導士とは、個人の体力や生活に応じて、安全で効果的な運動プログラムを作成および指導するとともに、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の概念に着目し、糖尿病等の有病者・予備群の減少に向け、本格的な生活習慣病予防対策を推進するための資格です。高齢化社会を目前にして、国民の健康の維持・増進は国家の課題ともいえ、健康運動指導士の需要はますます高まっています。

健康運動指導士の資格をとるには、下記の表にある科目の単位を修得し、かつ、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格しなければなりません。

在学中に受験した場合は、卒業後何回でも受験することができます。

しかし、在学中に受験しなかった場合、卒業後4年間受験資格は認められていますが、4年以上経過すると受験資格が消失します。

《健康運動指導士関係科目一覧》

健康運動指導士

No.	科目名	単位数	No.	科目名	単位数
1	健康づくり施策論	2	11	トレーニング実習	1
2	健康管理学	2	12	水泳・水中運動	1
3	健康教育学	2	13	ジョギング・ウォーキング	2
4	スポーツ生理学	2	14	健康産業施設等現場実習	1
5	機能解剖学 I	2	15	スポーツ救急理論・実習 II	2
6	スポーツバイオメカニクス	2	16	健康づくりと運動プログラム	2
7	体力トレーニング論	2	17	運動負荷試験	2
8	スポーツ外傷・障害と予防	2	18	発育発達老化の理論・実習	2
9	測定評価理論・実習	2	19	スポーツ心理学	2
10	エアロビック運動の理論	2	20	スポーツ栄養学 I	2

(2) 日本赤十字社「救急法救急員」

日常生活における事故防止、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得できます。

《日本赤十字社救急法救急員関係科目一覧》

No.	科目名	単位数
1	スポーツ救急理論・実習 I	2

(3) 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団公認「健康運動実践指導者」

健康づくりのための運動指導者に与えられる称号の一つで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識、技術等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳及び水中運動等のエアロビック・エクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことができると認められる方に与えられます。

健康運動実践指導者の資格を取得するためには、下記の表にある科目の単位を修得するに加え、公益財団法人健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格しなければなりません。

なお、**在学中に受験しないと受験資格を失います。**

《健康運動実践指導者関係科目一覧》

健康運動実践指導者

No.	科目名	単位数
1	健康管理学	2
2	スポーツ生理学	2
3	機能解剖学 I	2
4	スポーツバイオメカニクス	2
5	発育発達老化の理論・実習	2
6	スポーツ栄養学 I	2
7	健康づくりと運動プログラム	2
8	スポーツ心理学	2
9	スポーツ医学	2
10	スポーツ外傷・障害と予防	2

No.	科目名	単位数
11	エアロビック運動の理論	2
12	エアロビックダンス	1
13	水泳・水中運動	1
14	ジョギング・ウォーキング	2
15	コンディショニング理論・実習 I (基礎)	2
16	トレーニング実習	1
17	体づくり運動	1
18	測定評価理論・実習	2
19	スポーツ救急理論・実習 II	2

(4) 公益財団法人 日本スポーツ協会「公認スポーツ指導者」について

日本スポーツ協会は、国民のスポーツ振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立、総合型地域スポーツクラブでのスタッフの育成を図るため、「(財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度」を制定しています。

将来、スポーツ指導者、トレーナー、総合型地域スポーツクラブでのスタッフ等を目指す学生は、日本スポーツ協会資格一覧の資格を取得することが望まれます。

本学が提供するカリキュラムにおいて、所定の単位を収めた学生は「共通科目 I・II・III」の「修了証明書」および「スポーツリーダー」の資格が取得できます。「共通科目 I・II・III」の「修了証明書」があると今後、公認スポーツ指導者資格を取得する際に、受講及び試験が免除されます。

これらの申請は、卒業年次のみにしか受け付けることができません。卒業後の申請は、いかなる理由であれ認められませんので、注意してください。

なお、アスレティックトレーナーの資格取得を目指す学生は、必ず申請するようにしてください。申請には、別途申請料を徴収します。

日本スポーツ協会資格一覧

スポーツ指導基礎資格

(h=時間)

資格	内容	要件
スポーツリーダー	・ 地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。	共通I

競技別指導者資格

資格	内容	要件
指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。	共通I 専門:40h以上
上級指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。 ・ 事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。	共通I+II 専門:20h以上
コーチ	・ 地域において、競技者育成のための指導にあたる。 ・ 広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる。	共通I+II+III 専門:60h以上
上級コーチ	・ ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。	共通I+II+III+IV 専門:40h以上
教師	・ 商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行う。	共通I+II+III 専門:80h以上
上級教師	・ 商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。 ・ 会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。	共通I+II+III+IV 専門:60h以上

フィットネス系資格

資格	内容	要件
ジュニアスポーツ指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う。	共通I 専門:40h
スポーツプログラマー	・ 主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。	共通I+II 専門:63h

メディカル・コンディショニング系資格

資格	内容	要件
アスレティックトレーナー	・ スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。	共通I+II+III 専門:600h
スポーツ栄養士	・ スポーツ活動現場において、競技者の栄養・食事に関する専門的なサポートにあたる。 ・ 競技者の栄養・食事に関する自己管理能力を高める栄養教育を行う。	共通I+II+III 専門:116.5h

マネジメント資格

資格	内容	要件
アシスタントマネジャー	・ 総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントのための諸活動をサポートする。	共通I 専門:35h
クラブマネジャー	・ 総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なマネジメントを行う。	共通I 専門:167.5h

(5)特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会「トレーニング指導者」

開講されている科目の中から指定された科目を修得することが必要です。修得後、同協会が実施する認定試験に合格すれば資格が付与されます。

特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会

「トレーニング指導者資格」受験資格取得に必要な科目

No.	科目名	単位数
1	体力トレーニング論	2
2	トレーニング実習	1
3	測定評価理論・実習	2
4	機能解剖学 I	2
5	スポーツバイオメカニクス	2
6	スポーツ生理学	2
7	スポーツ栄養学 I	2
8	スポーツ心理学	2
9	スポーツ救急理論・実習 I	2
10	スポーツ外傷・障害と予防	2
11	健康教育学	2
12	コーチング論	2
13	コンディショニング理論・実習 I (基礎)	2

※本資格取得のためには、日本赤十字社「救急法救急員」（前出(2)）の資格を取得していることが必要です。

「救急法救急員」の資格を取得するためには、No.9「スポーツ救急理論・実習 I」を履修し、試験に合格する必要があります。

(6) 公益社団法人 日本キャンプ協会公認「キャンプインストラクター」

これはスポーツ健康科学科でのみ取得できる資格です。

キャンプインストラクターは、キャンプでの活動（アクティビティ）を指導できる能力を持った指導者で、基礎的な知識、技術、考え方を習得し、キャンプの場面でその能力を発揮する指導者です。また、この資格はキャンプディレクター 2 級、1 級へステップアップするための基礎資格となります。

No.	科目名	単位数
1	キャンプ実習	1

(7) 公益財団法人 日本スポーツ協会「アスレティックトレーナー」

アスレティックトレーナーはスポーツ健康科学科でのみ取得できる資格です。この資格を取得するためには、下記の表にある科目の単位を修得し、かつ、公益財団法人日本スポーツ協会が実施する検定試験に合格しなければなりません。

No.	科目名	単位数
1	トレーナー概論	2
2	体力トレーニング論	2
3	スポーツバイオメカニクス	2
4	スポーツ生理学	2
5	スポーツ心理学	2
6	機能解剖学Ⅰ	2
7	機能解剖学Ⅱ	2
8	スポーツ外傷・障害と予防	2
9	スポーツ医学	2
10	健康管理学	2
11	測定評価理論・実習	2
12	機能評価理論・実習	2
13	体づくり運動	1
14	コンディショニング理論・実習Ⅰ（基礎）	2
15	コンディショニング理論・実習Ⅱ（競技別）	2
16	リハビリテーション理論・実習Ⅰ（基礎）	2
17	リハビリテーション理論・実習Ⅱ（応用）	2
18	アスレティックトレーニング理論・実習	2
19	スポーツ栄養学Ⅱ	2
20	スポーツ救急理論・実習Ⅰ	2
21	スポーツ救急理論・実習Ⅱ	2
22	アスレティックトレーナー実習Ⅰ（基礎）	1
23	アスレティックトレーナー実習Ⅱ（応用）	1
合計 23 科目 43 単位		

* 本資格取得のためには、日本赤十字社「救急法救急員」（前出(2)）の資格を取得していることが必要です。

「救急法救急員」の資格を取得するためには、No.20「スポーツ救急理論・実習Ⅰ」を履修し、試験に合格することが必要です。

* アスレティックトレーナーの受験を希望する学生は、**卒業年次に日本スポーツ協会「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「専門科目」の修了証明書の申請を必ず行ってください。**申請を行わない場合は、「アスレティックトレーナー」を受験することはできません。申請は、卒業年次のみにはしか受け付けることができません。卒業後の申請は、いかなる理由であれ認められませんので、注意してください。申請には別途申請料を徴収します。

(8) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認「初級障がい者スポーツ指導員」

初級障がい者スポーツ指導員とは、地域で活動する指導員で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ導入を支援する者です。この資格を取得するためには、下記の表にある科目の単位を修得し、課外講座「障がい者スポーツ大会サポートボランティア養成講座」を受講した上で申請を行う必要があります。

《初級障がい者スポーツ指導員関係科目一覧》

No.	科目名	単位数
1	安全教育（学校安全を含む）	2
2	アダプテッド・スポーツ論	2
3	スポーツボランティア論・実習	2
	グローバルスポーツ演習	

※上記科目を修得する他、課外講座「障がい者スポーツ大会サポートボランティア養成講座」を受講した上で申請を行う必要があります。

(9) 一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会認定「スポーツトレーナー（JPSU-ST）」

一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会が認定するスポーツトレーナー（Japan Physical Education and Sport University - Sports Trainer, JPSU-ST）は、運動実践指導に長けた救急・予防対応ができる指導者です。この資格を取得するためには、下記の表にある科目の単位を修得し、卒業時まで有効期限がある一次救命処置（Basic Life Support, BLS）資格を取得し（証明書が必要です）、修了認定講習会の全ての講座を受講した上で修了認定講習会時に行われる論述試験に合格する必要があります。

《スポーツトレーナー関係科目一覧》

No.	科目名	備考	単位数
1	スポーツ救急理論・実習 I		2
2	スポーツ心理学		2
3	機能解剖学 I		2
4	スポーツ栄養学 I		2
5	スポーツバイオメカニクス		2
6	健康教育学		2
	健康管理学		
7	スポーツ生理学		2
8	コーチング論		2
	コーチング概論		
	トレーナー概論		
9	体力トレーニング論		2
10	体づくり運動		1

11	器械運動		11～14から3領域 を選択し、各領域 から1（合計3）
	エアロビックダンス		
	ジョギング・ウォーキング		
	専門コーチング演習Ⅰ（子どもスポーツ）		
12	陸上競技		
	水泳・水中運動		
	スポーツ教材研究Ⅰ		
13	バスケットボール		
	サッカー		
	ラグビー		
	アメリカンフットボール		
	野球・ソフトボール		
	バレーボール		
	テニス		
	バドミントン		
	卓球		
	スポーツ教材研究Ⅱ		
	スポーツ教材研究Ⅲ		
専門コーチング演習Ⅱ（ボールゲーム）			
14	柔道		
	剣道		
	スポーツ教材研究Ⅳ	剣道または柔道	
	専門コーチング演習Ⅲ（武道）		
15	スポーツ外傷・障害と予防		2
16	トレーニング実習		1
17	健康産業施設等現場実習		1～4
	教育実習（高等学校）		
	教育実習（中学校）		
	アスレティックトレーナー実習Ⅰ（基礎）		
18	測定評価理論・実習		2
19	コンディショニング理論・実習Ⅰ（基礎）		2
	コンディショニング理論・実習Ⅱ（競技別）		

※上記科目の単位を修得する他、卒業時まで有効期限がある一次救命処置（BLS）資格の証明書と、修了認定講習会の全講座受講および論述試験合格が必要です。

2019年（平成31年）4月発行

スポーツ健康科学部

履 修 要 綱

流通経済大学

RKU

<http://www.rku.ac.jp/>